

気管挿管・人工呼吸器管理後に関する患者さんの情報の研究利用についてのお知らせ

この度国立病院機構東京医療センター救急科・耳鼻咽喉科では、「抜管後の声帯評価～診療看護師による経皮的喉頭超音波検査の有用性～」を行うことになりました。

この研究の目的は、当院 ICU に入室し気管挿管・人工呼吸器管理後に抜管した患者さんの声帯麻痺に対して診療看護師が行う経皮的喉頭超音波検査 (TLUSG) 結果と医師が行う喉頭ファイバーにて声帯麻痺の有無を調べて、集中治療領域において、診療看護師が行う TLUSG が声帯麻痺のスクリーニング検査に有用かどうか明らかにすることです。この研究のため、2019年4月1日より2020年8月末までに当院 ICU に入室し抜管した方の診療録調査を行います。対象となるのは当院 ICU に入室し(緊急入院で手術室より挿管管理のまま帰室した方を含む)、気管挿管・人工呼吸器管理後に抜管した方で、かつ診療看護師が経皮的に TLUSG を抜管後 48 時間以内に実施し、次に耳鼻科医師が喉頭ファイバーにて 48 時間以内に実施した方で、調査項目は個人情報を含まない医学的な情報(年齢性別、病名、気管挿管チューブサイズ、人工呼吸器管理期間、TLUSG、喉頭ファイバー所見等)のみです。患者さんのお名前、住所などのプライバシーに関する情報が外部に漏れることは一切ありませんのでご安心下さい。調査したデータは、本研究の責任者のもとで厳重に管理されます。また、今回の研究で得られた結果に関しては、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告されることがあります。また、ご自身のデータを研究に利用することを承諾されない方は下記にご連絡下さい。その場合も、診療上何ら不利な扱いを受けることはありません。この件に関しましてご質問等がございましたらご遠慮なくお尋ね下さい。

2020年9月

研究責任者

東京医療センター 救急科

栗原智宏

連絡先 03-3411-0111(代表)